



ほつとするね
緑の府中

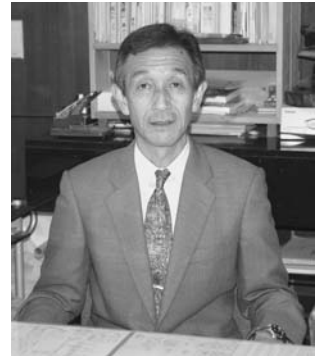
指導室だより

第 82 号

編集・発行 府中市教育委員会教育部指導室
〒183-8703 府中市宮西町2-24
電話 042-335-4063

◎ 豊かな心の育成

今回の学習指導要領の改訂においても、「生きる力」をはぐくむことの理念は引き継がれ、子供たちに「豊かな心」を育成することが重要視されている。



豊かな心の育成

自己肯定感・ 自尊感情をはぐくむ

府中市立府中第八小学校

校長 亀山 福三

たばかりの4月24日に「全国学力・学習調査」がありました。その中で、生活に関する意識調査の項目に「自分にはよいところがあると思いますか」という設問もありました。

に全校朝会で「自分のことが好きですか?」という話をしました。「自分自身のよさに気付いて、更に伸ばしてほしい。」と話したことを覚えていきます。……

○ この設問に対する調査の結果は、よく聞いてください。

これは、前任校の平成19年度の卒業式での式辞の一節である。

「そう思う」「どちらか」とそう思う」このように答え

「世界青年意識調査」や「高校生」の未来意識に関する調査等の国際的な意識調査からは、

た六年生が、全国平均では72%、東京都平均は70%、本校、皆さんの平均は79%、このよ

自分のよさに自信をもち、積極的に行動できるよう、自己肯定感や自尊感情等を高めていく教育を推進することが課題として

うな結果でした。どうか?皆さんの10人に8人は「自分にはよいところがある。」と自信をもっている

浮き彫りにされていたときだけに、文科省の調査結果を分析して、驚きとともに嬉しさも

のです。「将来の夢がありますか」の設問も同じような結果

を感じた。同時に、保護者や地域の方々に協力を求め、三者での地道な積み重ねが、この結果に

結びついたことを確信し、決意

を新たにすることも覚えている。

◎ 本校での主な取組

9月1日、子供たちを更に伸ばすために、次のことがらを再度、確認し合い、第二学期のスタートをきった本校である。

☆ 家庭や地域に理解され、共に歩むこと

☆ 教職員、学級、学校が受容的で共感的な雰囲気醸成し、子供一人一人の存在を肯定的にとらえていくこと

☆ 子供たちと接するとき心がけることは

・ 子供たちのよさを見付け、気付けさせる

・ 子供たちの話を聴き、話に共感する

・ 「できる」「伸びる」といった肯定的な見方をする

・ 受容的な態度で子供たちと接する

☆ 子供たち同士の良い人間関係づくりを進めること

本校の教職員と右記の点を確認すると同時に、私も、全校朝会や学校だより、地域での会合等で、子供たちのよさを高め、本校の子供たちの良い面をたくさん紹介しようと決意を新たにしました第二学期初日であった。

地域から、子供たちの善行がたくさん届くことを願いながら教職員と地道な教育活動を進めている本校である。

◎ 各調査結果から

今回は、「豊かな心」の中でも「自己肯定感」とか「自尊感情」といった点にしばって考えてみたい。

○ 皆さんが、六年生になっ

○ 私は皆さんが四年生の時

＝初任者等研修会＝

子供・保護者から 信頼される教師を目指して

教師は、単なる知識・技能の伝達者ではなく、人格の形成者としての責務が大きいことを念頭において、学級づくりをする必要がある。(学級担任実務必携 より)

◆講義・演習「人権教育の推進」



◆府中第一小教諭 島袋 盛雅

一学期を振り返ると改めて、

クラスの子供たちには感謝の気持ちでいっぱいである。もし今のクラスがベテランの教師が担任だとしたら、子供たちは今よりも分かりやすい授業を受けることができ、よりよい学級経営の中で生活を送ることができたであろう。しかし、私を信頼してついてきてくれ、助けてくれた。そんな子供たちのためにも、しっかり教材研究を行い、「分かる授業」をしていきたい。

◆府中第二小養護教諭

神田 千尋

小学校では、一、六年生の発達段階の違いが大きく、保健室での対応にとまどうことがある。

しかし、複数配置の良さ、誰にでも相談できる職場環境により、一つ一つの課題を解決できている。保健室に来室する子供は、体や心のどこかに痛みを伴っている。私は、その痛みと共に感じ、痛みを和らげる方法を子供と一緒に考え、子供たちが学校生活を安全で健康に過ごせるよう、今後も支援していきたい。

◆府中第三小教諭 白澤 孝弐

初任者等研修を通して、授業の実践方法や子供とのかかわり方を学んでいる。それらすべてが、これからの教師としての土台となるものであり、日々実践していくことで自身の課題も見えてくる。今は一単位時間の授業を最後まで行うことに精一杯なため、子供の理解に沿った授業ができていないなどの反省の連続である。これらの課題を前向きにとらえ、次へ生かすことで自身の成長につなげたい。

◆府中第六小教諭 筒井 隆之

私はこの一学期間、子供たちと毎日を通す中で「試行錯誤」ということを学んだ。子供たちはどの場面においても、まずは自分一人でやってみる。何度も間違い、何度もやり直しをして答えを導いていく。この様な子供たちの姿を見て、私自身も何事にも失敗を恐れることなくチャレンジし、失敗を次に生か

していけるような教師を目指してこれからも精一杯頑張っていこうと思う。

◆府中第六小教諭 黒岩 禎

子供たちは、毎日を生懸命に過ごしている。だからこそ、目に見えないほどのスピードで成長することができる。一生懸命が故に、友達とぶつかり合うこともあれば、泣くことも多い。しかし、一生懸命な姿は美しい。

◆府中第七小教諭 橋本 周治

民間での社会経験を生かし、慌てずしっかり準備をして臨もうと思っていたが、実際に勤務すると想像以上の出来事がいっぱいあり、結局無我夢中で過ぎた一学期であった。そういった中でも、子供たちはこんなことにつまずき、こんなことに喜び、こんなことで頑張れるということを実感することができた。

◆府中第八小教諭 中條由加里

この経験と研修で学んだことを生かし、子供たちに頼られる教師になりたいと思う。教えはぐくむことの難しさを感じる、反省ばかりの毎日ではあるが、子供たちの笑顔、そし

て成長した姿を見るたびに「教師になって本当によかった」と感じている。一学期は日々の忙しさに追われ、慌ただしい毎日だったので、二学期は自分の心にゆとりをもち、子供たち一人ひとりとじっくり向き合っていきたい。昨日より今日、今日より明日の向上心を忘れず、全力投球で頑張りたい。

◆府中第九小教諭 日高 雄光

初めて教師として子供たちの前に立った時は、とても緊張していた。最初の1週間は「こんな教師でいいのかなあ」と悩み、まともに眠れなかった。しかし子供たちや保護者、さらに職場の先輩の方々などみんなに温かく受け入れてもらい、不安な日々が楽しみな毎日に変わっていった。今はとても充実した日々を送っている。これからも笑顔忘れず、日々研さんして頑張っていきたい。

◆府中第九小教諭 橋本 佳奈

初任者等研修二回目の人権教育では、注意ばかりでなく褒めることも人権にかかわる大切なことだと学んだ。最初は、秀でたところを褒めようとしたが、なかなか見付からず、逆に注意が増えた。そこで、先輩教師のアドバイスを受けながら、小さなことを褒めるようにした。結果、少しずつであるが、子供と

の距離が縮んできた。今後も、子供の頑張りや褒め、良さを伸ばせる教師を目指していく。

◆府中第十小教諭 小林明日香
念願の教師になり、あっという間に4か月が経った。毎朝笑顔で教室に入ってくる子供たちと「おはよう」のあいさつをすることが私の何よりの楽しみである。教師として教える立場ではあるが、子供たちに教わることも多く、毎日が充実している。子供たちとのかかわりや授業を重ねるほど、悩みや課題は増えていく。悩みは尽きないが、一歩ずつ成長し、誰からも信頼される教師になりたい。



◆先輩教師示範授業「三年道徳」授業者 南白糸台小 久武教諭

◆住吉小学校教諭 豊嶋 勝也
教師として初めての1学期は失敗と反省の毎日だった。毎日試行錯誤を繰り返す中で、私は教師として最も大切なことに気が付いた。それは「情熱」である。先輩方の見通しのある授業展開、実態に沿った教材研究、子供たちへ愛情ある接し方。すべては「子供たちをよりよくしたい」という思いであり、それが教師の原動力であると身をもって感じた。私も同じ思いを胸に自己研さんに励みたい。

◆矢崎小学校教諭 勝田麻由美
4月、33人のまっすぐな視線の先に立ち、この子供たちを大きく成長させようと改めて思った。初めてのことがばかりで、あっという間に過ぎ去った日々。その中で、個々の児童理解、どんなことでもねらいを明確にもって望むこと、また、教材研究の必要性を学んだ。今後も常に児童の興味・関心をひきつけられる授業づくりと安心できる学級を目指し取り組んでいきたい。

◆若松小学校教諭 河野 有貴
期待や不安や様々な気持ちがあが交錯していた4月から半年以上が経った。あっという間だったが、教師として毎日新しい経験を積み重ねることができ、充実した日々を過ごしている。今後も初任者等研修で学び、若松小の先輩

教師から学び、若松小の子供たちからも学び、教師として日々成長していきたい。

◆小柳小学校教諭 眞谷明日人
編集者から教師へ。その過程で府中市のメンタルフレンドを始めたのが昨年の4月。それから1年、一年生担任として教壇に立つ機会に恵まれている。

◆小柳小学校教諭 立川 翔子
念願の教師になり、4か月。多くの人に助けられながら日々奮闘している。私は今、なかなか指導の通らない場面、個々の児童と良い関係を作る努力をしている。水泳指導の時間、個別に指導するチャンスがあり、一生懸命教えた。検定に合格したことを報告してくれたときには、少し距離が縮まった気がした。これからは根気強くコミュニケーションをとり、良い関係をつくっていきたい。

◆四谷小学校教諭 會田 輝彦
つい5か月前まで、大学生であった私が、今、子供に勉強を教えていることが驚きであり不思議でもある。初任者等研修で

教師の使命とは、「子供のために命を使う」ということを教えていただいた。私は、そのことを堂々と伝えるような教師になりたいと思う。そのために、私は子供のために命を使っているから日々自問自答をしながら、初任者としての残り期間を大切にしていきたい。

◆四谷小学校教諭 佐藤 生
昨年度の夏に産休代替教員として四谷小学校に赴任し、今年度は家庭科専科として、担任とは異なる形で子供たちとかわるることになった。子供たちとどのように関係をつくっていくのかなど、考えさせられる日々が続いている。

◆南町小学校教諭 高木 萌
子供とたくさん話をし、学級の児童一人一人のことを誰よりも理解している教師になりたい、そう強く思いながら4月を迎えた。無邪気で素直な子供たちは本当にかわいく、毎日幸せであった。しかし、改めて強く感じたのは学級経営の難しさであった。教師としての力を付けるために、多くのことを学びたい。そして

◆南町小学校教諭 瀧村 明大
4月から教師という職業に就いて、不安と緊張の連続ではある。しかし児童と話をしたり遊んだりする中で、児童とともに学び合う充実した日々を過ごすことができている。

初任者等研修を通して、自分と同じように悩んで、それでも子供たちと向き合っている先生方の存在は自分の励みになる。今後も研修を通して、そこから学び取ったことを学習や生活指導に生かしていきたい。

◆南町小学校教諭 本多 希美
4月から気付けば半年が経ち、明るく笑顔で過ごす児童から元気をもらいながら実りの多い日々を送っている。その様な学校や初任者等研修での学びを通して大切にしたい事は教師と児童の信頼関係である。児童が安心して自分の意見を表現し学べる場をつくりながら児童をより傍らで導いていくのが教師であると思う。これからも児童や保護者の気持ちに丁寧寄り添いながら毎日を大切に過ごしたい。

周囲の先輩教師のように素晴らしい教師になりたい。

無邪気で素直な子供たちは本当にかわいく、毎日幸せであった。しかし、改めて強く感じたのは学級経営の難しさであった。教師としての力を付けるために、多くのことを学びたい。そして

初任者等研修を通して、自分と同じように悩んで、それでも子供たちと向き合っている先生方の存在は自分の励みになる。今後も研修を通して、そこから学び取ったことを学習や生活指導に生かしていきたい。



◆南町小栄養教諭 田中 律子

「食べる」とは「生きる」とである。何をどれだけどのように食べるかで、その人の健康や寿命まで左右する食。その重要性はもちろん、食べる楽しみや喜びを子供たちに伝えていけたらと考えている。また10年後、20年後まで心に残る給食を提供し、学校を軸に家庭や地域と連携して府中市の食育を推進することが、ただ一人の栄養教諭である私に課せられた使命と考える。

◆日新小学校教諭 齋藤 マリ

私が教師を志す上で感銘を受けた詩の一節だが、「私が先生になったとき、一人手を汚さずに自分の腕を組んで子供たちに勇気を出せというのか」とある。

常に子供と向き合っていて、もっている可能性を最大限に伸ばせる教師になりたい。

◆日新小学校教諭 山口 大輔

不安と期待の入り混じった気持ちでスタートした教師生活ももう6か月が過ぎようとしている。子供たちと過ごす毎日があっという間で、一緒に笑ったり、叱ったり、充実した日々を送っている。今後、もっと子供たちと向き合い、信頼関係を築けるようにしたい。授業も教材研究に力を入れ、子供たちに

学ぶ楽しさを伝えられるようにしたい。

中学校教諭・養護教諭

◆府中第一中教諭 六川 咲美

子供たちに「数学の楽しさを伝えたい」と思い、採用試験を受けて1年が過ぎようとしている。初めて授業をした時は、この子供たちが私が最初に受け持つ生徒なんだと感動したので覚えている。教材研究は大変だけど、子供たちの「分かった」「できた」「楽しかった」という声を聞いた時は、何よりも嬉しい私の目標である「数学の楽しさを伝える」ために、これからも頑張りたい。

◆府中第一中教諭 内田 健一

教師となって5か月が経った。日々力を付ける生徒の行動力、発言、表現力に刺激を受ける毎日である。それらの変化を間近で見ることができるのは、大変うれしいことであるが、反面、生徒一人一人に合わせた指導や状況判断に責任とプレッシャーも日に日に感じる。そうではあるが、私にとっては、生徒が毎日成長していることを実感できることが幸せなことであり、働く原動力となっている。

◆府中第二中教諭 丸島 俊博

大学を卒業し、右も左も分からず不安のほうが大きかった。しかし、授業や、サッカー部を

指導する中で、生徒たちの笑顔を見ていけるとその不安もすぐに消えていった。やはり一番の心の支えとなったのは、生徒たちであった。その生徒たちが、良い授業を受け、良い学校生活を

◆府中第四中教諭 立澤 裕二

4月、51歳の新任として生徒の指して25年、遠回りをしたが第一歩を踏み出した。特別支援学級での体験はすべてが初めてのことで、とまどいの毎日である。しかし、元気に登校して行く生徒たちの姿に励まされ一学期を乗り越えることができた。

◆府中第五中養護教諭 横内 恵美

実際に保健室勤務をするようになり、思春期にある子供たちへの対応の難しさを改めて感じている。人間関係、異性との関係、社会性、将来のことなど、反抗期にある生徒や、まだ幼さが残る生徒に対し、どう指導し、理解へとつなげるかとても難しい。大人と子供の中間地点に

◆府中第八中教諭 田沼 若菜

府中第八中学校に来て早くも5か月が過ぎた。教師の仕事は毎日が子供との真剣勝負で、自分の行動一つ一つについて反省の日々を送っている。しかしそんな中でも何気ない生徒とのやりとりや、部活動等でのかわりかとても楽しく、自分なりに教師という仕事の魅力を感じるようになってきた。これからは生徒とかかわることの喜びを忘れることなく、生徒と共に成長していきたいと思う。

◆府中第九中教諭 我妻洋一郎

教師となり、早くも一学期が過ぎた。日々教育の難しさを痛

る生徒たちが、健康で自他共に大切にできる大人になれるような指導や対応ができる養護教諭を目指していきたい。

◆府中第六中教諭 上村 一弘

4月1日に府中第六中に着任し、教師生活が始まった。子供たち一人一人と触れ合っていて感じることがある。

◆府中第十中教諭 櫻井 秀一

それは、場面によって子供たちが見せる顔が異なることである。授業では表情が冴えなくても、部活動などでは、とても冴えていることである。活躍の場が異なっている、子供たちは日々成長しているのである。その手助けを一つでも多くしたいと思う次第である。

◆お詫びと訂正

9月号の22年度校内研究・研修主題等一覧の中で、教科・領域等の欄に誤りがありました。お詫びして訂正します。

府中第三小 算数科↓国語科

府中第三小 算数科↓国語科



わが校の特色ある教育 NO. 48

過去と未来をつなぎ、 充実した今を生きる教育活動 ～とびたつの記と同窓会のかかわりを通じて～

府中市立府中第五中学校

主幹教諭 河村 明彦

本校では、毎年3月、三年生が卒業を迎える時期に、「とびたつの記」と題した手記を書いている。これは、卒業を直前にして、遠い将来の自分に向けた今の思いを期待や決意を含めながら自由に書き記すものである。

このようにして書かれた手記は、丁寧に包装されて、校舎敷地内に建立されている「とびたつの記文庫」という六角の塔の中に納められる。卒業式前日は、各クラスの学級代表がクラスメイトが書いた「とびたつの記」を持ち寄り、入庫式を行っている。



「とびたつの記」が納められた六角塔

折しも、本校の校舎改築にともない、本校同窓会が「五中学校舎お別れ同窓会」と称して定期総会を開催す

同窓会との連携

「とびたつの記」の六角塔は、創立10周年を記念して五中学校舎の同窓会によって建立されたものである。このようにして書かれた手記は、丁寧に包装されて、校舎敷地内に建立されている「とびたつの記文庫」という六角の塔の中に納められる。卒業式前日は、各クラスの学級代表がクラスメイトが書いた「とびたつの記」を持ち寄り、入庫式を行っている。

「とびたつの記」の由来

こうして文庫の中に納められてきた手記の存在が、先の6月に開催された五中同窓会総会の際に大きく取り上げられた。手記は、総会に集まった同窓生に創設以来初めて公開され、大盛況の中、言わばタイムカプセルを開けた時の様な大変な関心をもって閲覧された。

「とびたつの記」は本校の特色ある教育活動の一つである。今回は、同窓会の総会で取り上げられたことで、その取り組みの意義がまた明らかになったと考える。以下、このことについて詳しく紹介したい。

「とびたつの記文庫」の六角塔は、創立10周年を記念して五中学校舎の同窓会によって建立されたものである。このようにして書かれた手記は、丁寧に包装されて、校舎敷地内に建立されている「とびたつの記文庫」という六角の塔の中に納められる。卒業式前日は、各クラスの学級代表がクラスメイトが書いた「とびたつの記」を持ち寄り、入庫式を行っている。

のである。以来、五中を卒業し未来に向けて「飛び立とう」とする三年生全員が、将来への決意や抱負を思い思いに紙面に書き記し、学級ごとに綴じ込んで六角塔に納めてきた。

創立以来48年目を迎えた今日、8000人を超える卒業生によって書かれた記が納められている。40年近い年月に渡って、同じ15歳が書き綴ってきたものが一つの場所に納められていることで、そこに何か大きな魂が宿っている様な不思議な感慨がある。在校生にとっても、やはり不思議な存在感をもった塔になっている。

さて、こうして毎年積み重ねられた文書については、その取り扱いについて全く規約のないままであった。一部の卒業生からは、昔自分が書いた「とびたつの記」を読んでもいたというような要望も、時折寄せられていた。

今後、どう取り扱っていくべきか、何らかのルールを確立することが課題として浮かび上がった。



同窓会総会の際の「とびたつの記」公開の様子

ることとなった。

創立50年近くの時節を経て1万人を超える卒業生が学んだ学舎である。同窓生にとって取り壊される校舎への惜別の思いは特別なものである。総会に足を運んでもらった際に、昔学んだ校舎内を公開し、校内を巡りながら中学生当時の自分に再会してもらおうというのが今回の企画であった。こうした主旨に乗じて、上述した「とびたつの記」の存在がクローズアップされたのである。

「とびたつの記」は総会時に閲覧公開されることになった。そのため、事前と同窓会幹事会が何回か行われ、「記」の取り

今後の展開

扱いについての規約が練られ、総会で了承されるに至った。

「とびたつの記」は本校の伝統として引き継がれていくことになるだろう大切な教育活動である。そして、書かれた手記の管理は同窓会組織が行っていくことが規約の中に明記された。5年ごとの総会の度に卒業後20年以上経過した同窓生を対象に公開される等の詳細についても規約の中に盛り込まれ、返却の方法に関することも今後幹事会の中で検討されていく予定である。

今回の「とびたつの記」を中心とした一連の動きにおいて、学校教育と同窓会組織との強い絆と連携を感じることができた。また、多くの同窓生が現在の五中の教育に改めて関心をもってもらう好機ともなった。

今後、この契機が具体的な支援へと発展し、同窓会が本校の教育活動を充実させるための有力な支援組織となるよう一層連携を図ることが課題である。



府中市教育委員会
研究協力校

研究発表会案内(2学期)

◆小柳小学校 10月15日

○研究主題「かかわり合い、伝え合い、わかり合える子」―話す・聞く活動をを通して、互いに尊重し合う子どもを育てる―
○パネルディスカッション「本研究と家庭との連携」講師 元北区立第三岩淵小学校校長 三原一浩先生

◆若松小学校 11月2日

○研究主題「自ら考え楽しく学ぶ子供の育成」―算数科の授業を通して―
○講演「子供の学びを深める算数授業」
講師 常葉学園大学教授 黒澤俊二先生

◆南町小学校 11月12日

○研究主題「読もう・調べよう・伝え合おう」―読書活動を取り入れた国語科授業の工夫―
○講演「読書の楽しみ」講師 児童文学作家 中川李枝子先生

東京都小学校体育研究会

多摩地区研究発表会

◆11月22日 13時00分

会場 府中第六小学校
※詳細は、問い合わせを。

日	曜	研修会・委員会等	会 場	研 修 内 容 等
4	月	生活指導主任会	教 育 セ ン タ ー	全体会、小・中分科会
5	火	人権教育推進委員会	学 校	研究授業、10/12・25も学校での研究授業
5	火	体力向上委員会	教 育 セ ン タ ー	全体会
7	木	I C T活用推進委員会	学 校	授業研究
8	金	小学校英語活動推進委員会	学 校	授業研究
14	木	第3回就学指導協議会	教 育 セ ン タ ー	全体会
18	月	特別支援学級代表者会	教 育 セ ン タ ー	全体会、分科会
18	月	環境教育推進委員会	教 育 セ ン タ ー	全体会、小・中部会
19	火	理科指導支援員研修	学 校	授業参観・協議
19	火	初任者等研修	学 校	授業参観・協議
20	水	算数・数学指導員研修	教 育 セ ン タ ー	全体会
25	月	学校図書館推進委員会	教 育 セ ン タ ー	全体会
26	火	校内研修担当者研修	教 育 セ ン タ ー	研修会
28	木	教務主任会	教 育 セ ン タ ー	全体会、分科会

10月研修会・委員会等予定



本年10月、愛知県名古屋市中で「生物多様性条約第10回締約国総会議(COP10)」が開催される。「生物多様性条約」は、急速に失われつつある生物の多様性を守り、活用しようとして、平成4(1992)年に創設された。平成21(2009)年12月現在、日本を含む192ヶ国とECが入り、世界の生物多様性を保全するための具体的な取組が検討されている。
生物の多様性は人類の生存を支え、様々な恵みをもたらしてくれている。東北大学の中静透教授は、生物の多様性が人類に与える恩恵として、「物質の供給」「調整」「文化」の三点を挙げている。一点目の「物質の供給」には、食料をはじめとして、水や燃料、繊維、化学物質などが含まれる。ごはん、汁物、煮物、酢の物など、1回の食事に様々な素材を活かした料理があることで、私たちはおいしく食事をし、バランスよく栄養を摂取することができる。二点目の「調整」は、

生物多様性の恩恵

生物の多様性が、自然環境のバランスを調整し、それが人間に利益をもたらしてくれることを指す。一種類の生物が集中的に存在すると、自然のバランスは悪くなる。森林から多様性が失われたことによるマツ枯れなどの被害は、その典型的な例と言える。今、私たちはそれらの被害を認識し、改善の方向を見いだしつつある。三点目の「文化」は、生物の多様性が、物の恵みだけでなく、精神的な恵みも与えてくれることを示している。四季折々に変化する自然豊かな我が国では、様々な色にも囲まれている。「桜色」「藤色」「若竹色」など、植物の名称が使われている色が、多数存在している。私たちが人間の思考の基盤となる言語も、生物の多様性を取り入れて成り立っていることは、大変興味深い。
中学校国語科では、「思考力や創造力を養い、言語感覚を豊かにする」ことが目標に掲げられている。豊かな言語感覚の基盤には、生物の多様性があるということを私たちが再認識するとともに、子供たちにも伝えていきたいものである。(参考文献『Science Window 2010年夏号』)

(指導主事 長井 敏満)

学びの窓

交通事故の減少にむけて

環境安全全部地域安全対策課

主査 平 修一

「人生とは、自転車のようなものだ。倒れないようにするためには走らなければならない。」物理学者アインシュタインの言葉である。

無論、物理学を持ち出すまでもなくペダルを踏み込み続けなければ自転車は倒れてしまうのだが、現実の社会は倒されることも多い。それは、交通とは人や乗り物の行き来であり、相手が存在するまさに相対的な関係にあるからだ。

さて、小学生の自転車事故は、71%が出勤頭で起こり、発生場所の60%は自宅から500mの範囲にある。つまり、自宅付近で安全確認することなく飛び出す事例が多い。

市では、昨年他市に先駆けて、「自転車の安全利用に関する条例」を制定した。そして、ヘルメットの着用や交差点での信号遵守、一時停止・安全確認を定めた「自転車安全利用五則」を市民に呼び掛けている。

交通事故防止に絶対的な対策はない。しかし、あらゆる策を講じていきたい。人生に倒れてからでは遅いのだから。